



《ロシアの Baby Box 》プレゼンテーションの抄録

コトヴァ エレナ ユーレヴナ（慈善基金団体「希望のゆりかご」会長）

ロシア初の現代的な「Baby Box」は2011年にペルミとクラスノダールという町で生まれた。このいわゆる「人生の扉」はペルミの慈善基金団体である「希望のゆりかご」により開かれた。

このプロジェクトはロシアの10の地域で支持されており、現在、計19個の「人生の扉」が存在する。ロシアで初めて「Baby Box」が誕生してから今までに78人の乳児の命が助かっている。その乳児のうち、12人は血の繋がった家族（親または親戚）の元へ戻った。残りの66人の乳児たちは、新しい家族に引き取られた。

「Baby Box」は医療機関に設置されている。すべての「人生の扉」には掲示板があり、そこには支援施設、カウンセリング施設および宗教団体の電話番号が幼児をポストに預ける決断をした親へのメッセージとともに掲示されていて、その決断で本当にいいのかももう一度考えるようにアドバイスしている。そういった「Baby Box」の周辺には、防犯カメラや警備員は配置されていない。

幼児が「Baby Box」に放置された際の施設側の対応は以下の通りとなる。

1. 幼児の体調を簡単に目視確認後、医師の判断により 必要な健康診断を全て行う。
2. 警察に連絡をする。警察は放置された幼児の捜索願が出ているかどうか確認する。何もその 幼児に関する記録が警察になく、子供の親が不明の場合、幼児は捨て子と認定される。
3. 里親管理組織に連絡をする。
4. 幼児は「Baby Box」に置き去りにされた瞬間から政府の保護下に置かれる。

母親や親族は幼児が養子に出されていない限り、その子を取り戻すことができる。

本慈善基金団体は里親管理組織や警察、ソーシャルワーカーと連携し、積極的に「Baby Box」への幼児置き去り防止に励んでいる。

2012年、私たちの慈善基金団体はペルミ市社会開発省と合同で、生活が苦しい妊婦または母親のための危機回避に特化した施設をペルミ市で初めて開設した。その施設に引き続き、さらに二つの施設がブレヅニキとチャイコフスキーに設けられた。2012年以降、この危機回避施設では781人の人々が助けられ、そのうちの416人は子供達であった。

本慈善基金団体は孤児や幼児殺害を防止している地域でも活動している。2016年には出資者との共同およびロシア大統領府の支援のもと、幼児殺害の社会的・心理的背景とその防止策を見つけることを目的として、複雑な社会学的研究を行った。

現在のところ、「Baby Box」の存在の必要性は法律レベルで未だ議論されている。しかしながら、「人生の扉」は多くの社会的支援を得ている。2016年には、たった3週間のうちに25万人以上のロシア国民が「Baby Box」の禁止に反対する嘆願書に Change.org サービスのウェブサイト上で署名した。国立世論調査センターのデータによると、75%のロシア国民が「Baby Box」を支援している。

慈善基金団体「希望のゆりかご」

会長

エレナ コトヴァ